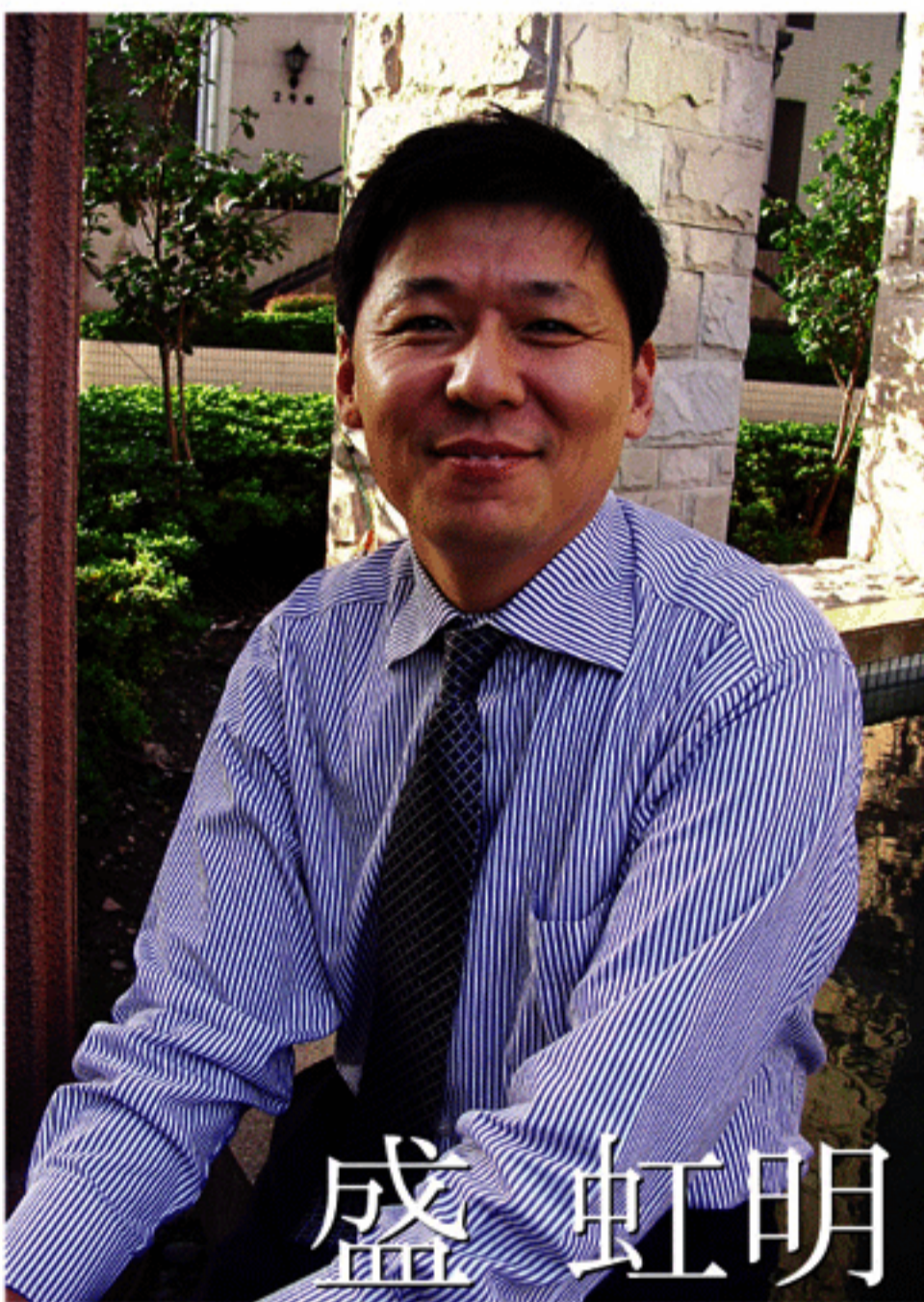


## 泣き寝入りも多い 美容整形の現実をもっと知って

「整形美人コンテスト」など奇想天外なイベントに見るように、中国の美容整形の市場規模は年々拡大している。想像を超えた安さと手軽さでその敷居は低く、街中のクリニックは施術を待つ患者でごった返す。だが、必ずしも誰もが「成功者」になるとは限らない。その現実と形成外科から見たあるべき美容整形を盛虹明先生が語ってくれた。



盛虹明

SHENG HONG MING

### 「松

田聖子みたいな顔にして」「サヤカみたいな顔にして」。

理想のアイドルの写真を持ってきて整形をせがむ女性たち。そんな私たちのわがままは国籍を問わない。

「何でもできるなんてありえない。ましてや、手術すれば永久なんてありえない」と現実を突きつける医師がいる。盛・美容外科の盛虹明先生だ。「トラブルや事故、副作用だってある。ただ、世論にならないのは本人が秘密で行う施術であるだけに、最後は泣き寝入りするしかないからだ」と続ける。

中国も空前の美容整形ブーム。二重まぶたで950元、隆鼻術で1200元と、効果が安く手に入ることから利用者がドッと殺到する。ところがこれが思わぬトラブルを招くことに。時間も体力も限られているなかで、分単位で手術をこなす医師、1日の最後にはヘトヘ

トになりその顧客のカルテも冷静に判読できなくなる。当然、仕上がりは期待を大きく外す。最近、美容整形に携わる医師の過労死は、薄利多売ゆえに数をこなすことを優先する美容整形界の裏事情をほのめかすものだ。

そして一度来た患者を手放さないがために、「何でもできる」と言い切り、1回当たりの単価を上げるために「目も口も鼻もやりましょう」と欲張った施術を引き受けてしまう。

そんな中国に美容整形の新星が現れる。「できないことはできない、それをほつきり患者に告げる、それが私のポリシーです」と盛先生は力強い。

「二重まぶたの次は鼻をもっと高く、それから口元も」と、患者さんの方も一度にいろんな部位を変えたがる。でも全部をいじった結果、

顔のバランスを崩すことだってある。私の施術はむしろ、一部だけを施術して全体を蘇らせるというものなんです」

盛先生に言わせれば美容整形は彫刻そのもの。自身の美術的作品にも等しいという。だからこそ、一人への時間を十分にかける。

「一日8時間の仕事の中で見て上げられる患者さんの数は自ずと決まっています」。

しかも盛先生の場合、少なくとも3回は患者さんとカウンセリングという形で向き合う。初めての面談で理想を聞き、2度目で先生のやり方、ポリシーを理解してもらい、そして3度目で施術箇所を決定するのだ。技術の差は歴然。二重まぶたもフェイスリフトも、そしてバストアップも盛先生の施術は決して「整形をした」とは思わせないごくごく自然な仕上がり

なのだ。

「中には整形にハマってしまう人もいます。でも必要のないのに無理にはやりたくない。だからこそそのカウンセリング。「あなたはこれのほうがいい、これ以上は必要ありませんよ」と説得するんです」

美容整形できれいになるのはむしろ心だとも。コンプレックスの解消とともに生き方が前向きになるからだ。

盛先生は横浜市立大学医学部形成外科で10年のキャリアを持つ専門医だ。形成外科とは先天性の口蓋裂や小耳症などの治療に当たったり、交通事故による外傷や火傷や癌で失った乳房などの再建などを行う分野。美容整形に司る医師ならば形成の基礎があるべきだが、「日本も中国も専門外のアルバイト医師が多い」とモラルのなさを嘆く。

日本には通算16年、だがこの春、高齢の母親の面倒を見るために帰国の決心をした。中国のある名門医科大学の教授職をも蹴って、「患者に一番近い医師」を選んだ。安心して受けられる美容整形、その扉が中国・上海で開かれようとしている。

### 盛虹明

1959年、江蘇省に生まれる。82年に南京医学院(現・南京医科大学)卒業。89年、日本に留学、北里大学医学部、横浜市立大学医学部を経て、聖マリアンナ医科大学にて形成外科にて医学博士を取得。97年から横浜市立大学医学部形成外科勤務、現在同学部客員研究員。今年6月に中国に戻る。日本形成外科学会会員、日本美容外科学会会員。今年9月、上海市浦東新区に「盛・美容外科」を開業。